

わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News

2019.
No.343 **2**

ハンガーゼロ・ニュース

特集 *Child* Supporter
チャイルドサポーター

contents

貧困からの卒業

チャイルドサポーターの取り組み

4つのプロジェクト紹介

家族のStory (ストーリー)

めぐみレター (サポーターの声)



1分間に17人 (内12人が子ども)
1日に2万5,000人が
1年間では約1,000万人が
飢えのために生命を失っています

カンボジアのロム ピーラックくん (13)



前号(11)で紹介したルシオ君はアルコール依存症の父親の死後、字が読めず歩行困難な母の為に休学して働いていました。愛の支援を受け、雨つゆをしのぐ一部屋が完成して喜んでいたら、左腕2箇所を骨折。手術は成功したものの、彼と母親には出生・身分証明書がないことが判明して退院許可が下りず、法律に基づく引き取り手がなければ彼は政府の施設に送られるという、まさに八方ふさがりの状態でした。

泣きたかったら泣きなさい

「だから僕は町の病院へは来たくなかったんだ！治療せず腕が曲がったままでも生きていける。僕の村には脚や腕が無い人が何人もいる。僕もそれでよかったのに。お母さんに会いたい！」と、彼は号泣して私に訴えました。私は強い口調で「ルシオ、悲しいのはよくわかる。泣きたかったら思い切り泣きなさい。でもあなたの腕を手術することは絶対に必要だった。あなた自身とお母さんの今後のために！神様が

変わるもの と 変わらないもの



ポリビア多民族国
駐在 小西小百合

きっと解決して下さるから、それを信じて祈りながら待っているのよ。もう少しの辛抱だから！」と諭しました。その後何人かの人に相談し、あらゆる可能性を模索し書類申請の為に駆けずり回りましたが、どこでも「書類不備」の一言で門前払いでした。

不可能が可能になった奇跡

しかしそのような状況の中、神様は不思議な方法で助け手を何人も与えて下さいました。まず同じ村出身の同病院内薬局で働く婦人。そしてコチャバンバ在住の彼の叔父が思いがけなく現れ、身元保証人を引き受けてくれたことと、支援経験豊かな男性クリスチャンが司法省の責任者と掛け合って下さったことで、ついに出生証明書の発行が実現したのです！その後同病院の入院児童の教育担当で、JIFH前支援地域のスタッフだったロサさんと出会え、彼女の上司でコチャバンバ市役所「子どもの権利擁護部署」の最高責任者に直談判がかなって叔父が身元引取り許可を得、ルシオ君は2週間ぶりに退院できたのです。「不可能だ」と何度も拒否されていただけに、これはまさに奇跡でした！（彼は13歳ではなく15歳だということも判明）。必要を覚えていたルシオ君に関わって下さったお一人お一人の、変わらない愛の行動によってこれが成し遂げられたことを、心から神様に感謝しています。

「これらの最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたし（イエス・キリスト）にしたのです」聖書



退院の日。叔父さん、同じ村出身のグロリアさんと

特集 *Child* Supporter
チャイルドサポーター

貧困からの卒業 ～新たなスタートを切る～

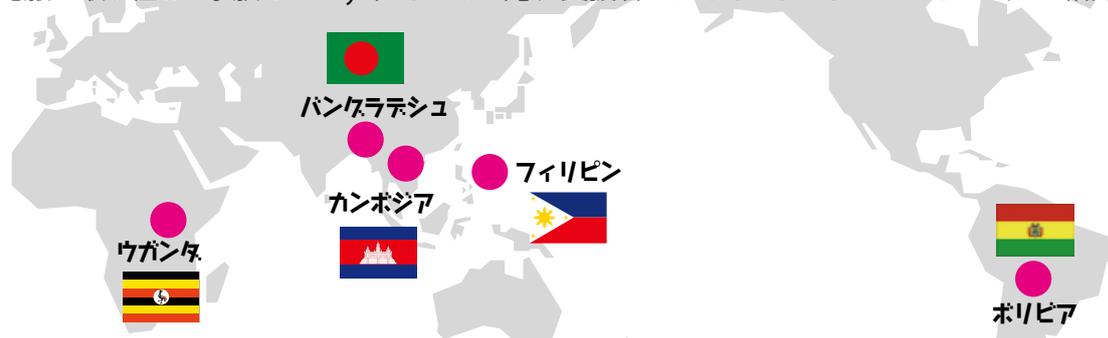
ハンガーゼロは、世界の飢餓や貧困に苦しむ地域に住む子どもが、子どもらしく健やかに成長できるような地域づくりを現地の国際飢餓対策機構と推進しています。その一環としてバングラデシュ、カンボジア、フィリピン、ウガンダ、ボリビアの5ヶ国で、「チャイルドサポーター」の取り組みを実施しています。

子どもたちはコミュニティの宝であり地域が自立するための鍵です。チャイルドスポンサーシップのプログラムは、子どもたちに学用品を支給したり、教育費を負担したりするだけではありません。子どもたちが苦しい状況に置かれているということは、子どもたちを含む周りの人たちが飢餓や貧困に苦しんでいるということですから、子どもたちを中心としてその周りの環境の改善を図りながら、最終的に地域が貧困から卒業できることを目標としています。

人が元気に生活し、健康を維持するために、手を洗うことや歯を磨くこと、住居を衛生的に保つことなどが現地の人たちにとって当たり前ではない場合があります。また文字を読み書きし、計算をすることができるのも貧困に苦しむ人々にとって当たり前のことではありません。勿論毎日の仕事やそれに伴った収入があることも当たり前ではないのです。治療費を払えない親は子どもが病気の際に病院に連れて行くことができません。天候により1年の半分しか仕事ができない漁師の家族は、十分な収入を得られません。女性の地位が極端に低い国では、女性が教育を受けても、収入を得ることはできません。迷信や占いを信じている人々に、現在の医療を理解できるように伝えていかなければなりません。

このように子どもが教育を受け、地域のリーダーとして成長できるまでにはさまざまな問題へのアプローチが必要となってきます。ハンガーゼロはサポーターの皆さんと共にこのアプローチ、支援を1つのコミュニティにつき10年で、その地域が自立できることを目指して取り組んでいます。

特集では現地で行われている学校菜園、貯蓄グループ、保健衛生、ヤギの飼育の4つのプロジェクトと貧困克服に取り組む「家族のStory (ストーリー)」、支援者のチャイルドサポーターさんの声を紹介します。



4つのプロジェクト報告

学校菜園で給食支援

【ウガンダ】

FH(国際飢餓対策機構)はアフリカのウガンダのカサーレ小学校とイジランゴビ小学校で学校菜園の取り組みを応援しています。これらの菜園は給食の食材を補うためのもので、豆 50kg、大豆 30kg、トウモロコシ 1,200kg を収穫することができました。これに加えて保護者は 5kg 分の収穫物と 2,000 ウガンダシリング(約 60 円)を学校給食に提供していますが、全員の分をまかなうことはできていません。学校の土地の一部を保護者も利用して作物を作っています。鍬、手押し車、ロープ、種子なども学校に提供されています。小学校高学年の生徒たちは、理科の授業として農園の手入れを行なっています。どちらの学校にも FH に協力的な農業の教師がいます。



これらの活動から、

- (1) トウモロコシも増え、ジャガイモも収穫できて学校給食に使われました。
- (2) 学校菜園の成功事例は、教育省に良い刺激となり、ナムトゥンバ郡のすべての公立校で学校菜園と学校給食制度が導入されました。
- (3) 合計 1,800 人(女児 1,200 人、男児 600 人)に給食を提供することができました。

(※ 600 人がカサーレ小学校の生徒、1,200 人がイジランゴビ小学校の生徒です。)

保健衛生教育で意識改善

【カンボジア】

4つの学校(トイチェイ・サッカダ・チャンビア・トークリック)では、「環境の日」の活動に 910 人の子どもが参加しました。FH と学校の協力は定例になり、この活動を通して子どもたちは、身の回りを清潔に保つ必要性を理解し、行

動する習慣を身に付けていきます。子どもたちは、環境保護のためにスローガンを考え、ポスターを作りました。大人も同じ思いになり、自分の家にゴミ捨て場を作っています。



【ボリビア】

ボリビアのコンフィタルの学校では、保健センターと協力して手洗いと口腔衛生のレッスンが行われ、先生と生徒が一緒に参加しました。健康を維持するために栄養価の高い食べ物を食べることも勧められました。衛生セット(シャンプー、歯磨き粉、せっけん、タオル)が提供されて、体を清潔にする習慣を学びました。

ヤギ飼育に多数のメリット

【バングラデシュ】

アヌムル ホケくん(写真⑥)の両親は、彼がチャイルドサポーターの支援に登録されたことをきっかけに、貯蓄グループのローンを利用してヤギを購入し、貧困から抜け出すという目標に向かって歩み始めました。また一家は彼を通じて多くの励ましを受けています。

【フィリピン】

マトノグ地区ではヤギ飼育プロジェクトが行われています。10 組の飼育者から始まった活動は、昨年 9 月の時点で、7 組が 15 匹のヤギを飼育しています。ヤギは土地がいらず、女性、子どもでも飼育することができます。どんな葉っぱでも食べるので、牧草地も必要ありません。飼育者は飼育に関するトレーニングを受けて、ヤギ小屋を建て、天気や害虫・外敵から守ることができるようになっています。

このプロジェクトでは最終的にヤギを売ることによって収入を得ることができますし、成長過程にも雑草の処理や糞によって畑の土を豊かにできるなど一石何鳥にもなります。

家族へ、そして地域へ つながる支援の輪



フィリピン



バングラデシュ



現地で行うプロジェクトは、この他にも、人権問題の解決、指導者育成、文化と世界観、防災教育などがあります。

貯蓄グループが女性を変える

【フィリピン】

現在フィリピンのスラ地区には6つの貯蓄グループがあり112人が参加、マトノグ地区でも6グループがあり112人が参加しています。メンバーが増え活動期間が長くなるにつれてメンバー間の関係が良くなって、収入を適切に管理できるようになりました。個人の資産運用に比べてグループ貯蓄活動には喜びと励ましがあります。

貯蓄グループのローンは、子どもたちの教育費、医療費、家屋修繕費、漁業の諸経費（網代、エサ代）、小売店の運営費、養豚などに使われています。いくつかのグループでは、収入の一部を給食支援や子どもたちへのプレゼント、高齢者や障がい者へのクリスマスギフトなど地域への福祉のために用いています。最近では地域の人々が自発的に貯蓄グループを設立する動きも見られます。

【バングラデシュ】

女性たちが貯蓄グループを、お金の価値と読み書きを学ぶ場として利用しています。20人前後のグループのメンバーは、会計、リーダーシップ、母親の役割、法律、健康、教育、裁縫などの訓練を受けています。識字教育を受けた人は拇印ではなく、自分の名前をサインできるようになります。名前を書くという行為は、個人のアイデンティティと自尊心を高めることになり、買い物の際に金額を誤魔化されることがなくなりました。

FHの協力が変化の機会になり、女性たちは一人では決して成しえなかった「社会を変える力」を持つようになりました。また家族に収入をもたらす存在にもなりました。読み書きできるようになったことで、教育への理解も深まり、娘たちを学校に通わせるようになりました。母親たちは未成年の結婚反対運動や、女性の貧困問題を解消する活動も支援しています。

Child Supporter
チャイルドサポーター

2つの支援方法

子どもを支援する

支援地域の特定の子どもとつながり、その地域で行われる活動を支援いただけます。あなたと出会い、応援を受ける子どもは自分が愛される大切な存在であることに希望を抱き、地域を変えるひとりへと成長していきます。

月々4,000円

子ども1人を支援することができます。

活動を支援する

子どもたちが暮らす地域で行われる様々な活動を支援いただけます。地域に住む人々がそれぞれの役割を果たし、子どもを取り巻く環境の改善と質の向上を目指します。

1,000円～

月々または自由なタイミングで支援できます。



詳しくはウェブサイトへ

お電話での問い合わせはCS事務局へ 直通TEL072-920-2226

家族の
Story
ストーリー

【サムエルさんの場合】

果物の価値を知ってジュース作り

ウガンダ、イジランゴビ地区カイチ村に住む、56歳のサムエル ムソボさんはより良い生活を目指して立ち上がった一人です。イジランゴビ地区では、農業を生業としている人が多く、ほとんどの人が農業用の水を「雨」に依存しています。そのため不順な天候や害虫の影響を大きく受け、収穫は少なく、生活の維持も困難です。このようにこの地域の生活基盤は他の手段を持たない限り、安定と程遠い状況です。

FH ウガンダは地域の人々にトレーニングを提供して、果物の価値に目を向ける機会を投げかけました。サムエルさんは先頭に立って行動を起こし、オレンジとパッションフルーツを使ってジュースを作り、収入を生むチャンスとして一歩踏み出したのです。

「ある店からわたしが作ったジュースを売って見ないかと声をかけてもらったんですよ。」と興奮気味に話してくれました。週に13ドルの収入を得ているそうです。サムエルさんは、手動のジューサーを使って1日あたり10リットルのジュースを作っています。技術を改良してもっと作りたいと思っています。またジュース販売がナムトゥンバの地域で広く行えるように期待しています。



【メイ・トリシー エイスさんの場合】

心のケアを大切に努力が実る

フィリピン、マトノグ地区在住のベネル氏（父親）とイサベリタさん（母親）の家庭に生まれたトリシー（写真⑤）は、7人兄弟姉妹の末っ子。小学校5年生で英語の勉強が好きです。

トリシーは肛門の障がいとダウン症を持って生まれました。2018年5月と8月に肛門の開通手術を受け、身体の機能は通常になりましたが、毎日学校に通えていませんでした。身体の不具合から悲しい経験をし、トラウマを抱えていました。家族が彼女を心から愛し、心のケアを大切に努力が実って、トリシーは回復に向かっています。入院と手術の費用のために一家は大きな負担を抱えていましたが、FHが医療費の半分を補助したおかげで別の医療器具を買うことができました。

教会の中高生らが自分たちでチャレンジ

～カンボジアの妹に会いに行きたいという夢も～



かしはら
 樫原キリスト教会では、2018年からチャイルドサポーターの取り組みを始めました。牧師が世界食料デー奈良南大会の委員としてご奉仕させていただくことがきっかけになって、世界の食料事情について教会全体で深く考えさせられる機会が与えられたからです。

教会として何ができるだろう。祈りつつ導かれたのがチャイルドサポーターでした。相談の結果、カンボジアのお子さんをひとり支援することが決まりました。毎月お捧げするものは、子ども教会の中高生の献金からです。今まで自分たちの茶菓に使っていた献金の一部。茶菓はいらないから、その分をカンボジアに捧げたいと中高生たちが自ら願い出て下さったことはとても嬉しかったです。

それ以来、彼らは海外に自分たちの妹ができたかのように、子ども教会でも毎週名前をあげて祈り、定期的に手紙や写真を送るようになりました。日本語の文章をハンガーゼロのスタッフが英語に訳す手間を省こうと、英語の文章にもチャレンジし始めました。カンボジアから送られてくるクメール語の文字にも興味津々です。



リナ ホウンさん (11歳)

私たちの取り組みが現地で実を結んでいる

中高生だけではなく、大人たちも礼拝で毎週、カンボジアの子どもたちのために祈るようになりました。行ったこともない海の向こうの遠い国ですが、私たちの小さな取り組みが現地で実を結んでいるかと思うと、主(神)のお手伝いをさせていただける感謝の気持ちでいっぱいです。ハンガーゼロ親善大使の「ナイト de ライト」の曲に、カンボジアを歌った作品がありますが、その歌を聞かたびに、実は地球はひとつだという思いを強くします。

ともに生きることを学ぶ大切な機会にも

世界に目を向け視野を広げる。それは急には難しく少しずつしかできないことかもしれません。もしかしたら、今まで知らなかった誰かの痛みや悩みや苦しみに触れることも含まれるのかもしれませんが。しかし同時に誰かとともに生きていくことを学ぶ大切な機会にもなると信じています。実際、彼らはいつかカンボジアに行きたいという夢を語り出しました。

日本アッセンブリーズオブゴッド教団
 かしはら
 樫原キリスト教会 牧師 小泉 智





ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18か国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころからだの飢餓」に応える活動をしています。

食後は募金箱にも

新登場バナナ味とセットで
~非常備蓄食「パンの缶詰」~



A 下記からお好みの2種類を番号で指定してください。

- ①ストロベリー味②ブルーベリー味
- ③オレンジ味(各賞味期限:製造から3年)

B バナナ味1個

(賞味期限:製造から13ヶ月)

C 缶キャップ1個(募金箱用)

A B Cを1セットにして

税込2,100円でお届けします。

*2セットなら税込3,400円と

お得に。(同一箇所へのお届け)
(いずれも沖縄、北海道は別途送料800円加算)

◎お支払い:後払い

郵便局払込で株式会社キングダム
ビジネス口座へ。

書き損じ「年賀はがき」で 国際協力ができます!

郵便局などで発売中の「年賀状」で書き損じたものやポストに未投函のもの(通常はがきや古い年賀状でもOK。但し書き込み、汚れのあるものは不可)がありましたら、大阪事務所までお送りください。

切手に交換してハンガーゼロの活動に使わせていただきます。

また、自宅などで使われずに残っている未使用切手や趣味で収集された各種の記念切手(未使用)も大歓迎です。通信費削減のために用いさせていただきます。

中学生のための 「国際理解・国際協力講座」

「国際協力が何だろう?難しそう…」そのような中学生も楽しい体験を通じて学ぶことのできる講座が、2月17日(日)に大阪国際交流センターの主催で開催されます。第1回目の内容は「ソマリーフード」食事を通し、世界の食生活を疑似体験します。講師は当団体の清家弘久理事長。食事体験や現地映像などを通じて、宗教、歴史、貧困の原因、難民問題などを学んでいただきます。



定員は30名。(先着順)

詳しい内容は、大阪国際交流センターの公式ホームページまで。電話でも受付06(6773)8989。

ファシトレ参加者募集中!!

3月18日から22日までの日程で開催する「ハンガーゼロ・ファシリテータートレーニングキャンプ at TCU」(東京基督教大学内)の参加者を募集しています。将来、途上国の人々と共に生き、働きたいと願っておられる方のためのキャンプです。共同生活をしながら、専門的な講義とグループワークで楽しく学べます。



参加費3万円(食費・宿泊費込) ※会場までの交通費除く
お申し込みは、大阪事務所 072-920-2225

サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

氏名	
(TEL)	
住所	〒
申込日	年 月 日 NL 343号
<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月()円(1円1,000円) ②一時募金として 円協力します。
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月()円(1円500円)
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落し申込書を送って下さい。
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在...4543口

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック facebookでハンガーゼロで検索

- 募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトまで
- ①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
 - ②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
TEL(072)920-2225 FAX(072)920-2155
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
TEL(03)3518-0781 FAX(03)3518-0782
愛知 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F
TEL(052)265-7101 FAX(052)265-7132
沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メソソク米202号
TEL(098)943-9215 FAX(098)943-9216
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター